

通信コーナー

2014. 12. 01

今日から師走です。今のところ寒さは厳しくありません。明日から冷気が入ってきて厳しい寒さとなりそうですが、今年の冬は暖冬の予想が出ています。それなりの寒さを望むところです。

衆議院が2年で解散となりました。大義なき解散とか、念のため解散、アベノミクス解散とそれぞれの立場で言い合っています。この時期、年末の忙しい時に解散して国民に信を問う必要があったのかと思われませんが、安倍首相の進めてきた政策の是非を問うということであることには間違いありません。選挙結果がどうなるのか？私には分かりませんが、国の針路にとって大事な選択が国民に託された訳ですから、棄権だけはしないで投票に行きましょう。

全国農業新聞11月28日付の一面で京都モデルファーム運動が掲載されている。この運動は地域だけでの活用が困難な耕作放棄地の解消に農業者のほか市民や企業、福祉団体など多様な参画を得て、京都府農業会議が主体となって取り組んでいるケースが紹介されています。京丹波町に55アールの作業農園を開設した(株)ヒューマンフォーラム(従業員670人)がニンニクなどの農業生産のほか、社員教育・人材育成に農業の力を借りるのが目的です。昨年10月に地元の区や農事組合と協定を結び、月1回従業員5～6人で1週間程度農作業に取り組み、研修中は自社研修施設で共同生活を送り、地域ともかかわり、新たな研修スタイルを創出しています。モデルファーム運動は農業会議が2011年度から実施してきているものであります。農業、食に関心が高まるなか農業に携わりたいと願う府民や企業と農村集落が協定を結び、力を合わせて農地を有効利用することで農地が担っている多面的な公益機能を支えることとなり、農村を元気にする新たな運動であります。農地の持つ洪水の予防や地球環境の保全とともに食を育む肥沃な土地を守らなければならない。耕作放棄地が増えている現状をNPOや民間が個別交渉で借りて耕しているケースはみられるが、「公」が表に出ることにより、農家が安心して託せるものとなっている。地方で農業従事者が減少するなか、都会の若者が期間を区切って、田舎に行って自然に触れることは新たな地方創生の鍵となるのではないのでしょうか。年末年の瀬です。ご精進下さい。